

## 人材経営の会 設立趣旨

歴史的な変革の時代が始まり、政治、経済、社会はその姿を大きく変えようとしています。この動きの中で中小企業が生き残り、発展する道はどこにあるのでしょうか？ 私達はこの問いを真剣に考えざるを得ません。企業の存続と発展とは、社会に役立つことでのみ実現できるのですから、この問いは、これからの時代において社会に役立てる事業経営のあり方は何か、ということと同じです。

新興国との労働コスト競争では勝敗は明らかですし、国内外ともに価格主体の競争からは何の展望も開けません。日本の中小企業ならではの価値を国の内外に送り出していく。これが将来への道筋ではないでしょうか。必要なのは、知恵と工夫から価値あるモノやサービスを創り出していくことです。事業経営をこの方向に導くのが、私達中小企業経営者にとって、最も重要な経営課題だと思います。

一方、世相を見れば、激しい市場競争の下、市場競争と人間性とどちらが大切かという状態の中で、お金だけが全てといった波に呑み込まれ、働く人々の人間性が歪められている例も少なくありません。しかし、仕事とは生きていくために必要なお金を得る手段だけではなく、人としての誇りや連帯をもたらすものなのではないでしょうか。労働の人的価値を再興する方向に事業経営のあり方を生まれ変わらせることも前項に勝るとも劣らない重要な経営課題だと思います。

創造性は人的能力の最たるものですから、知恵と工夫は働く人への押しつけからは産み出せません。自律した個人とチームワーク(協働)から生まれ、豊かな心を育む方向で労働が営まれているか否かに深く影響されます。ですから、「知恵と工夫から価値あるモノやサービスを創り出していくこと」と「労働の人的価値を再興する」という、二つの重要な経営課題は一体で分離できないのです。また、創造的な協働活動では少人数がむしろ有利です。これらの点に、創造と人的価値とを尊ぶことで事業を営もうとする中小企業が、期待を込めて未来を展望できる根拠があります。

事業の大黒柱を社員の人的能力の開花にすえて、能力の開花を推進する経営を追求する。つまり「人材による経営」と「人材への経営」の双方を共に進めていく経営姿勢を「人材経営」と呼びましょう。私達は「人材経営」こそ、企業の繁栄の礎となり、働く人々を心と金銭の両面で豊かにしていける経営のあり方だと考えています。

企業は社会の公器です。価値あるモノやサービスで社会に貢献し、働く場として人々を社会につなぎ、勤労を通して人的能力を解き放つ。これが社会の公器としての企業の姿です。「人材経営」が唱える新たな企業観や勤労観は、これからの時代、多くの人々の心を捉えていくと確信しています。

「人材経営」をさらに研磨し進化させ、多くの中小企業に人材経営のあり方を広め深めていきたい。こうした思いから、中小企業が多いこの大阪の地で、「人材経営の会」を発足させることにしました。趣旨に賛同される経営者のみなさん、「人材経営」の道を共に進んで行こうではありませんか。